

令和7年度水資源功績者表彰受賞者と功績概要

〔個人〕・・・2名

受賞者	功績概要
沖 大幹 (国土交通省推薦)	東京大学大学院工学系研究科 教授 水文学の研究により、数値モデリングを通じて水文学、気候変動、持続可能性の間の結びつきに関する理解を大きく前進させる卓越した学識を示した。世界の主要河川のデジタルマッピングであるTotal Runoff Integrating Pathways (TRIP) により、様々な土地管理や気候シナリオのもとで必要とされる緑の水資源（土壌水分）を明らかにするなど、世界の水の供給と需要の現状と、気候や社会の変化の下での将来予測推定を可能にし、水の持続可能な管理に向けた国際社会の取組を促進した。これらの業績が評価され、2024年8月に水のノーベル賞とも呼ばれるストックホルム水大賞を受賞した。
三富 佳一 (新潟県推薦)	柏崎土地改良区理事長 土地改良区理事長として、水利施設の適切な維持管理等に指導力を発揮したほか、令和元年度に竣工した国営かんがい排水事業において、栃ヶ原ダム、後谷ダム、市野新田ダムの事業推進と早期完成のため関係機関（国、県、市町村）と連携し水資源開発に尽力した。 また、3ダムの完成後は、流域治水協議会・減災対策協議会の構成員として、治水協定に基づく事前放流等による洪水調節に積極的に協力し、下流域の被害リスク低減に貢献している。長きにわたり、県土地改良事業団体連合会会長並びに県議会議員として、新潟県全域の農業用水の安定確保による農業の振興に貢献した。

〔団体〕・・・5団体

受賞者	功績概要
特定非営利活動法人 里山自然学校 はず みの里 (岩手県推薦)	環境省の里山環境モニタリングサイト1000事業における岩手県内唯一のコアサイトとして生態系調査を開始し、地元の小学生等を対象とした川の水質調査体験会も行っているほか、森林学習会を開催するなど、水環境の保全の普及啓発活動を精力的に実施している。 このほか、公共工事等に係る動植物調査にも協力するなど、生物多様性に優れた水資源の維持に貢献している。

北上川フィールドライフクラブ (岩手県推薦)	花巻市内の北上川周辺の清掃活動を行い、河川の環境保全、環境美化に取り組んでいるほか、「カップ天国」と称した川遊び体験により水生生物調査や水辺調査を行い、地域の小学生や住民を対象に環境学習を実施している。 また、国土交通省が取り組んでいる「かわまちづくり」について、花巻市が推進する「花巻市（仮称）花巻地区かわまちづくり計画策定協議会」の委員として参画するなど、水資源行政の推進にも寄与している。
安積疏水土地改良区 (福島県推薦)	安積疏水の水路が完成して以降、長きにわたり郡山市・須賀川市・本宮市・猪苗代町の3市1町、8,000haを超える水田への用水等に活用するための維持管理を実施している。 また、猪苗代湖及び猪苗代湖流域の水源地域の環境保全のため、流域住民や団体、事業者、行政機関が連携した清掃活動に参加しているほか、郡山市及び近隣市町村の小学校を始め多くの団体への現地案内や、「安積疏水を訪ねる小学生の集い」と称した十六橋水門・上戸頭首工・田子沼分土工などの案内を実施しており、環境保全、地域活性化に取り組んでいる。
特定非営利活動法人 雨水市民の会 (東京都推薦)	阪神淡路大震災や東日本大震災において被災地への雨水タンク等の設置支援を行ったほか、安全な飲み水の確保が難しいバングラデシュにおいて雨水利用国際協力事業を開始し、以後スカイウォータープロジェクトとして雨水タンク普及事業を実施するなど、雨水活用支援を通じた社会貢献事業を実施してきた。 また、自治体、事業者等と連携しながら、雨水活用・水循環に関する市民向け講座などの環境学習事業を実施し、雨水活用の普及啓発を図っている。 2024年には、「第14回雨水ネットワーク全国大会2024 inすみだ」を中心となって開催するなど、全国規模での雨水活用の普及に貢献している。
特定非営利活動法人 耶馬溪の自然と景観 を守る会 (大分県推薦)	平成19年の設立当時から耶馬溪ダムやその周辺などにモミジ2,000本以上、サクラ300本以上を植栽するとともに、下草刈りや清掃活動などを実施している。 この「耶馬溪の森林（もり）」は、耶馬溪の観光スポットの1つとして多くの観光客が訪れているほか、清掃活動等は近隣の住民のみならず、ダム水の供給先の市町の住民が参加して行われており、環境保全とともに地域活性化に貢献している。